



校長通信

北の風

2011年度 北中物語

第6号 2011.5.30

文責：校長 中村 裕子

校長mail yuko-nakamura@staff.gsn.ed.jp

朝の北中

朝7時ちょっと前、生徒たちが学校にぞくぞく登校してくる。そして、グラウンドへ。どの顔も緊張とやる気で実に引き締まった表情をしている。そして、その生徒たちより早くグラウンドにいる教員、「おはよう!!」「いい顔してるな!」「最近違うな!!」等々の励ましの声をかけながら生徒たちを迎えている。そして、7時、「北中駅伝部」の活動が始まる。まずは、名物、教員から生徒たちへのメッセージ。話す教員は真剣、そしてその話には「熱い思い」がある。聞く子どもたちも研ぎ澄まされた表情をしている。まさに生徒と教員の思いが朝のグラウンドで交流している。メッセージで心を温めた後、250人もの生徒たちと教員が1つの輪になって声を掛け合い準備運動へと。そして、いよいよ目標別グループでの「挑戦走（私はこう呼んでいる）。人はこんなにも真剣になれるのか、と思わせるほどの「魂がこもった走り」がグラウンドに渦巻く。生徒と一緒に走りながら生徒を励ます教員、きっと励ましながら生徒のがんばりに感動しているのだろう。ゴール後の生徒たちの姿は言うに及ばず・・・。充実感や達成感で満ち満ちている。ある生徒に聞いてみた、「君はなぜ走るのか」と。そしたらこう答えてくれた。「走っている時っていろいろ考えられるんです。そしてがんばっている自分を実感できるのです」と。朝早く家を出てくるのは楽でない、走ることも楽でない。しかし、走る生徒たちは、この「楽でないこと」を乗り越えることで大きな何かをつかんでいるのだろう。（このこと、走らずとも、朝練習に参加している生徒も同じ）

高崎行きの高線に乗車している方から「北中の生徒の走る姿を見るのが朝の楽しみ、そして、走る姿を見ると、自分にも力がわいてくる」という内容の電話をいただいた。自分の為だけにやっている「挑戦走」だが、名も知らぬ人に元気を届けているのだ。そして、北中にも元気の火をつけてくれているのだ。また教育実習生が、「朝、生徒たちと一緒に走っていると、『教師』とは何なのかがわかるような気がする」とも語ってくれた。

自分に「喝」を入れて何かを始めるのは難しい・・・。そして、苦しいことを続けることも難しい・・・。しかし、その苦しさを乗り越えた若者は強い、強くならないはずがない。

学力向上の第一歩は

北中生、新年度序盤の2ヶ月を大変元気に過ごすことができました。「ピチピチ」しているといった感じですが。保護者の皆様も成長ぶりをお感じになっていることでしょうか。このような中、中間テストの結果が返されたことと思います。テスト結果が返されるのは、何度経験しても緊張するものです。特に中学校初となる1年生は、小学校時代には経験しなかった「順位」が示され、とまどいも感じているのではないのでしょうか。

この「順位」、どの学年・生徒・保護者でも気にならないわけないでしょうが、どうぞ、それだけにとらわれないでいてください。「順位」を全体の中での位置という意味に捉えていただき、間違っても、「この順位ならこの高校に・・・」などとの考えはしないでください。進路を意識して学習するという事はこういうことではありません。どの学年も、この時期に一番大切なことは、「学習の構えの確立＝授業に臨む条件を整える」や「毎日の家庭学習習慣の確立」です。多くの保護者が陥りやすいことに、点数や順位は気にするが、忘れ物や提出物には関心が低いということがあります。皆様、6月は、お子さんの「学習の構え」や「家庭学習」に関心を持ってください。そして、仮に不備があるようなら即刻改善させていきましょう。「忘れ物の根絶」「提出物100%」そして「毎日の家庭学習」、この3点セットを万全にさせていくことが学力向上の第一歩です。

重ねてになりますが、『順位』は、その時の学力の一部の表れであって、これが学力の全てではないということを大人として心しておきたいものです。

心身の成長を願う

青葉の美しい季節になると、何か新しいことをしたくなる意欲が湧いてきませんか？反面、始業から2ヶ月、心や体に疲れが出てくるのもこの時期です。学級が変わったり、担任が変わったり、学習内容も難しくなったりして、学習環境や交友関係の大きな変化に、ストレスを感じていたり、悩んでいたりする子どもも少なくありません。

朝、おなかが痛い、頭が痛い等、登校を渋ることはありませんか。また、家庭で学校のことを話さなくなった、言葉遣いが急に乱暴になった等の変化はありませんか。このような状況が出てきたこの時期の対応の仕方がその後大きく影響してきます。(生徒指導の「水際」と言えます)

子どもが何気なく出すサインを大人が見逃さないことが大切です。サインを見つけたら、子どもをリラックスさせ、じっくりと話を聞いてあげてください。

子どもは学校で見せる面と家庭で見せる面が違うことがあります。どうぞ、お子さんについてご相談したいことがありましたら、学校へ連絡ください。「水際」での相談が問題を深刻化しない策です。学校は、お父さんやお母さんを超える立場にはなれませんが、お子さんにとって第二の存在にはなりますので・・・。

本校にはスクールカウンセラー（大場陽子）が毎週水曜日に常駐しております。お子さんについて心配事がございましたら、遠慮なくご相談下さい。なお、相談は、計画的に行っていますので、希望される場合は一報ください。
(一報先は、担任・教頭をお願いいたします)

